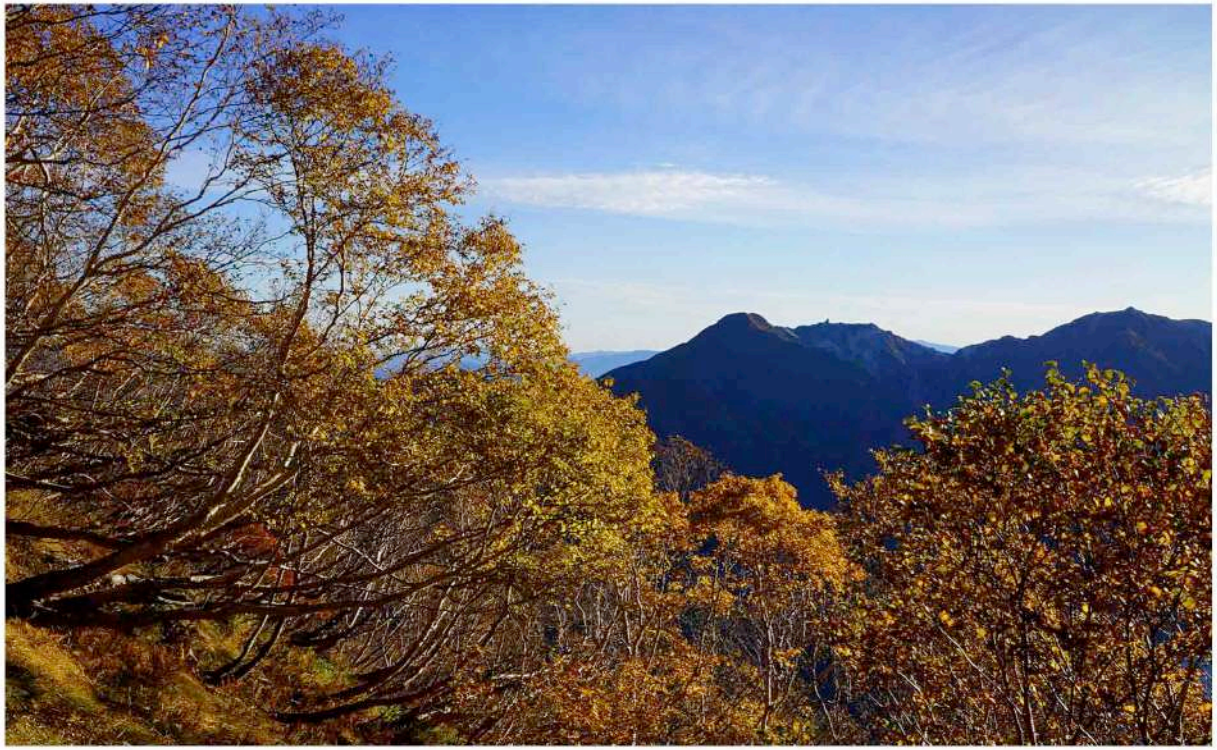
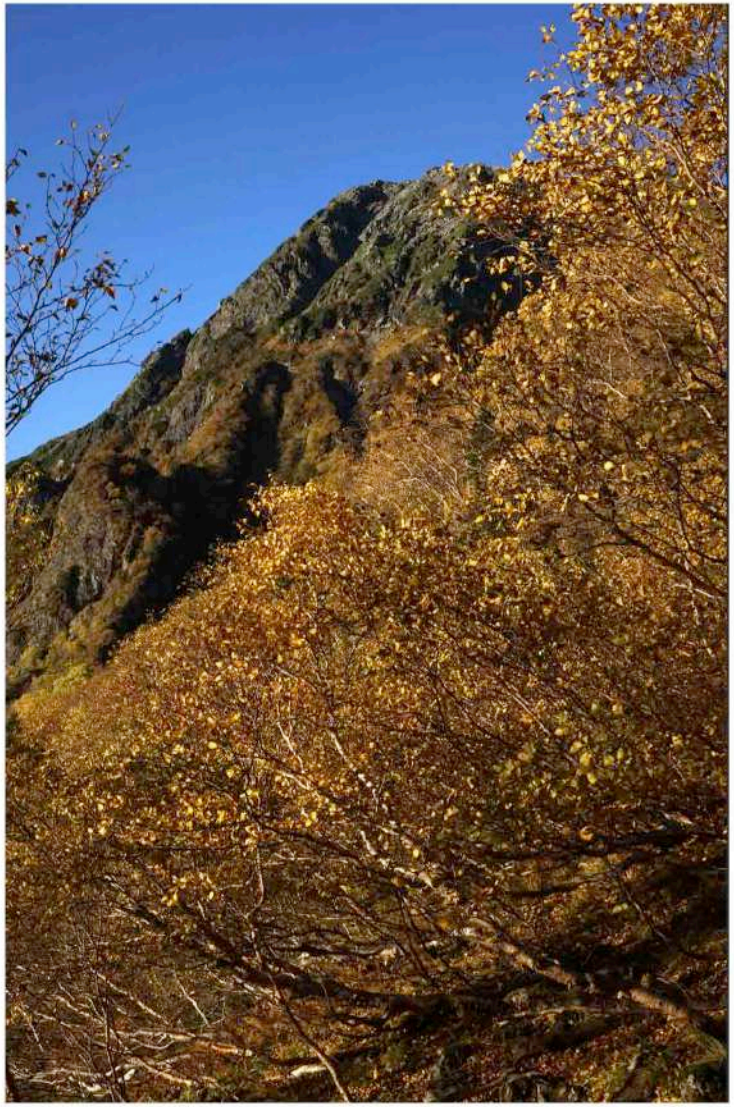
小太郎尾根往復
2015.9.30

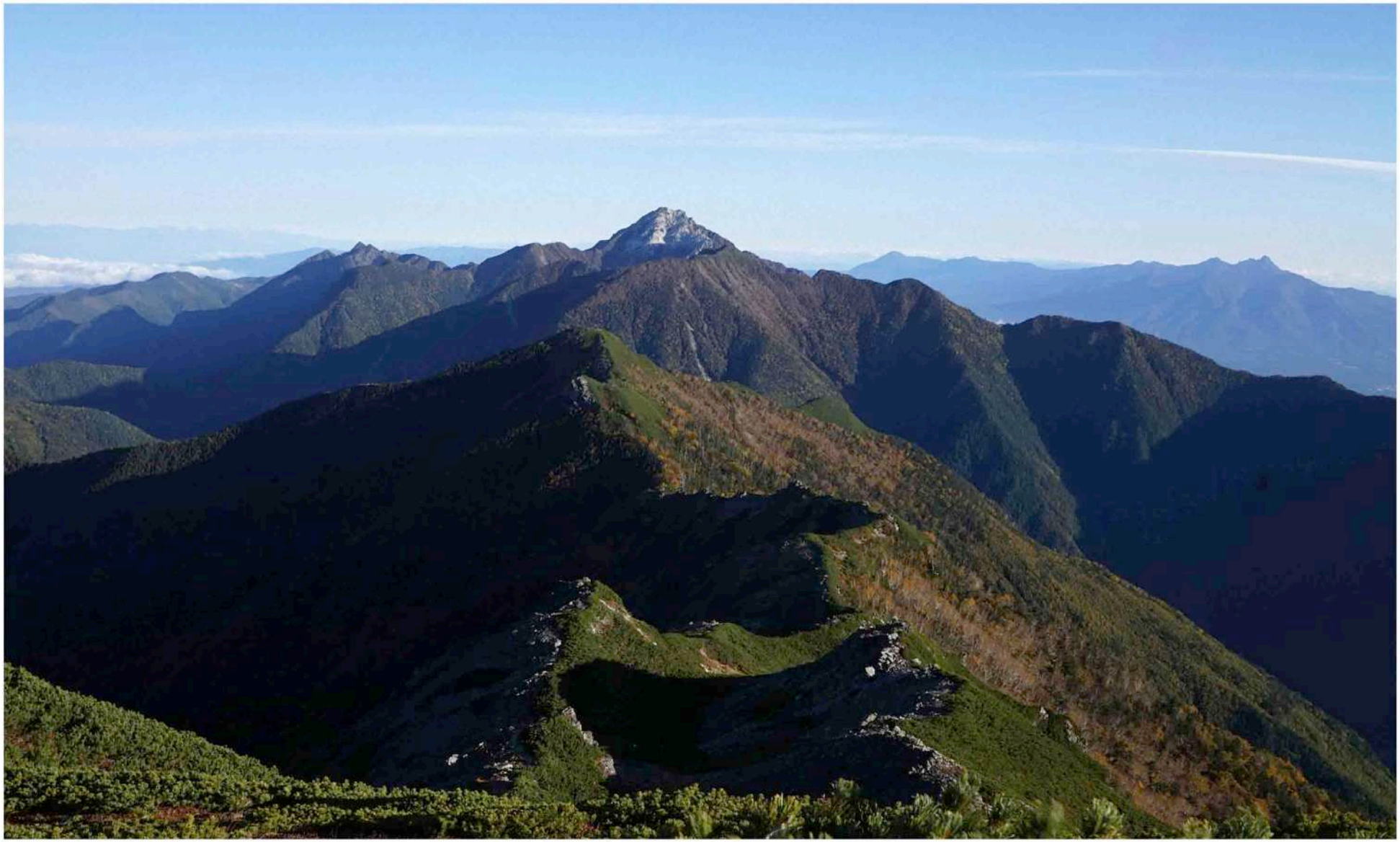
南アルプス北部のほぼ中央にありながらも滅多に訪れる人のいない、小太郎山（2752m）。藤原氏の山梨100名山行の秩眉を飾るにふさわしいと言うことで、同行させていただくこととした。



1ヶ月近く天気待ちしたおかげで山中３日めの今日も快晴。朝日に紅葉が映える。ジグザグと登る樹間から昨日登ったマッチ箱が垣間見える。下からはなかなか見えなかった地蔵のオベリスクも姿を現した。

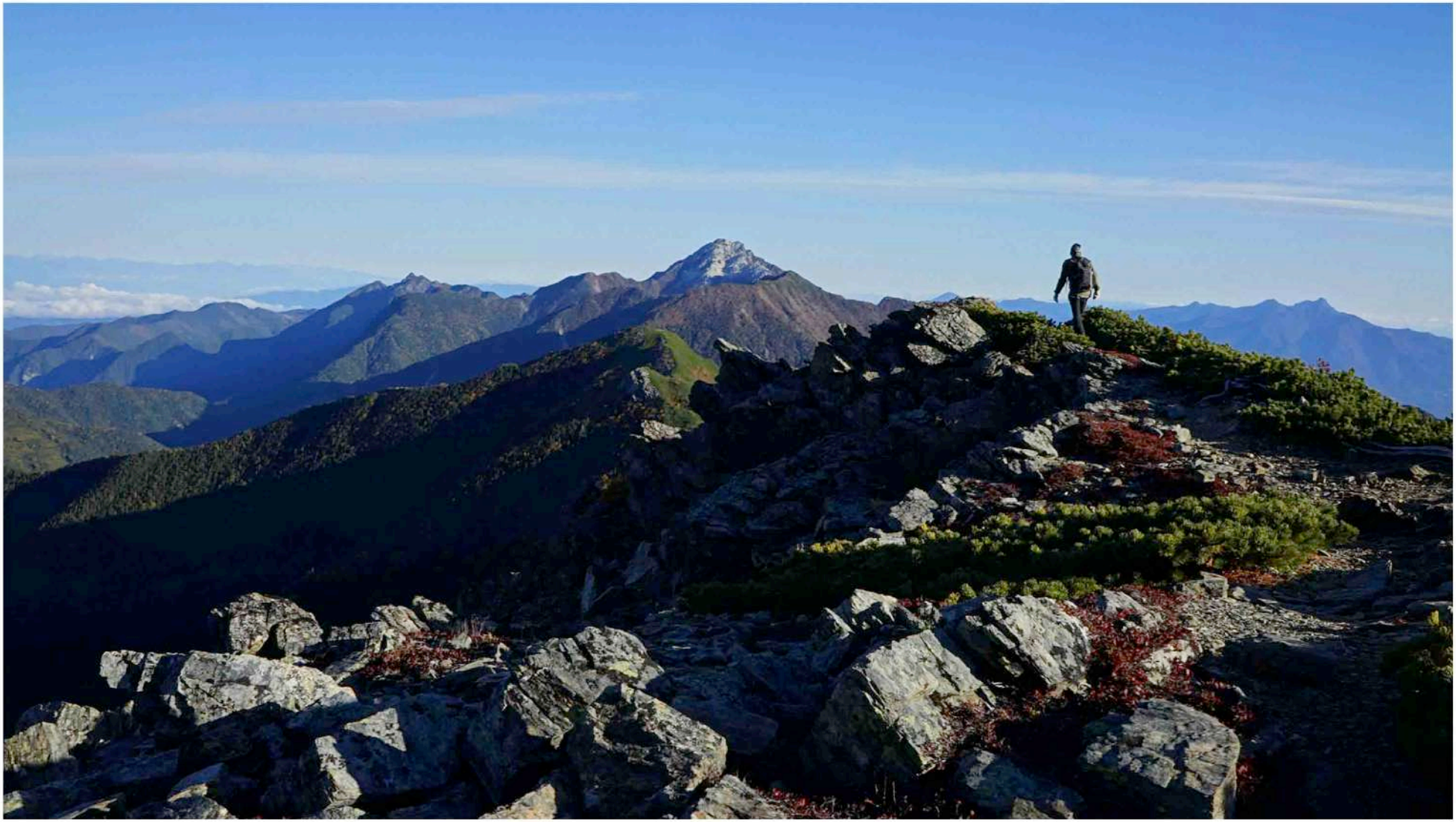


野呂川の上に川雲が湧き、そこに朝日が差し込み、見事な眺めとなる。
御池小屋からの草すべりの道はいつもながらの気持ちのよい急斜面だ。

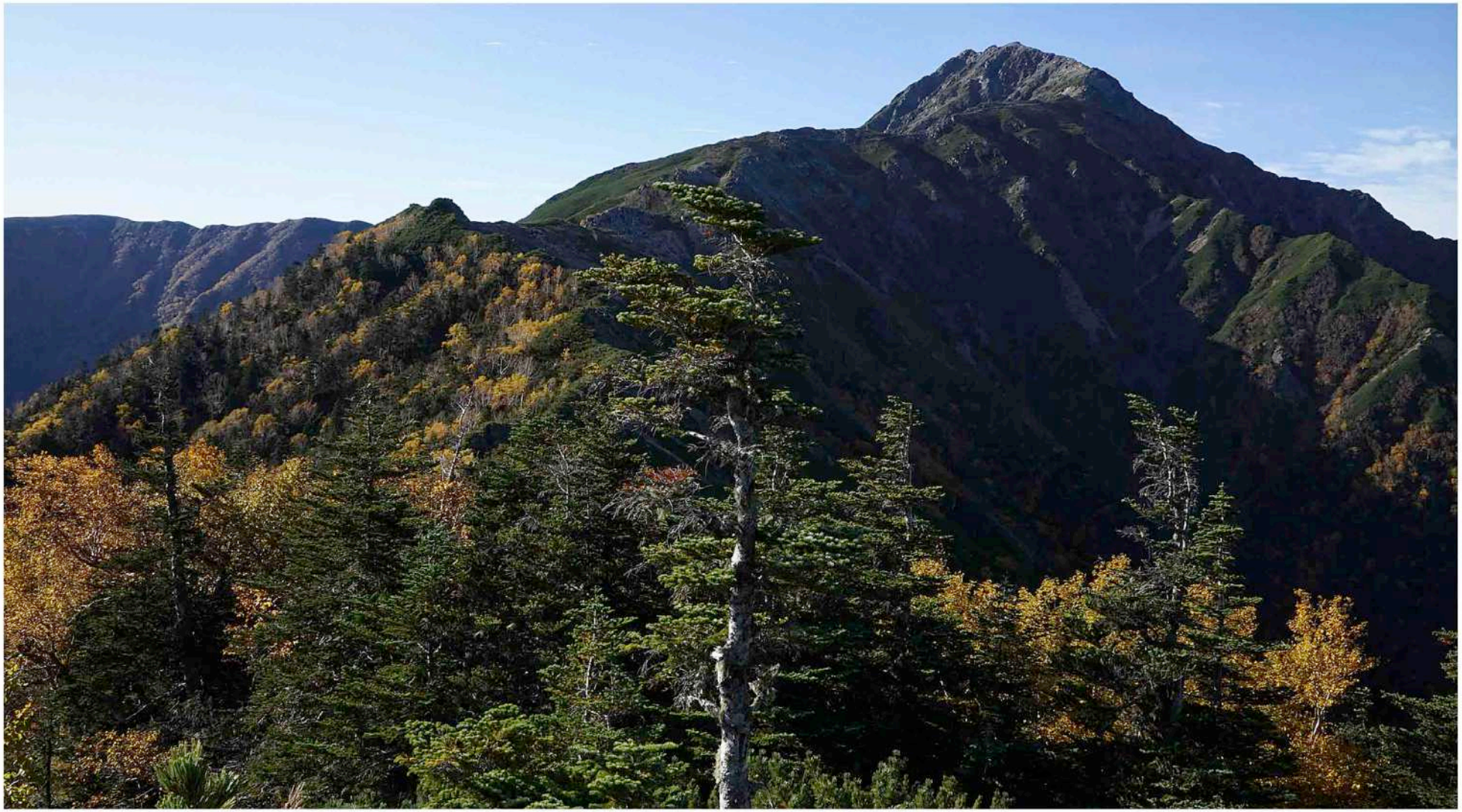


１時間１５分で稜線上の小太郎尾根への分岐点着。突然吹き飛ばされそうな強い北風。
その風の向うに蛇行する小太郎尾根、ゆるやかな三角形の小太郎山、そして頭をかち割られた様な甲斐駒ヶ岳。

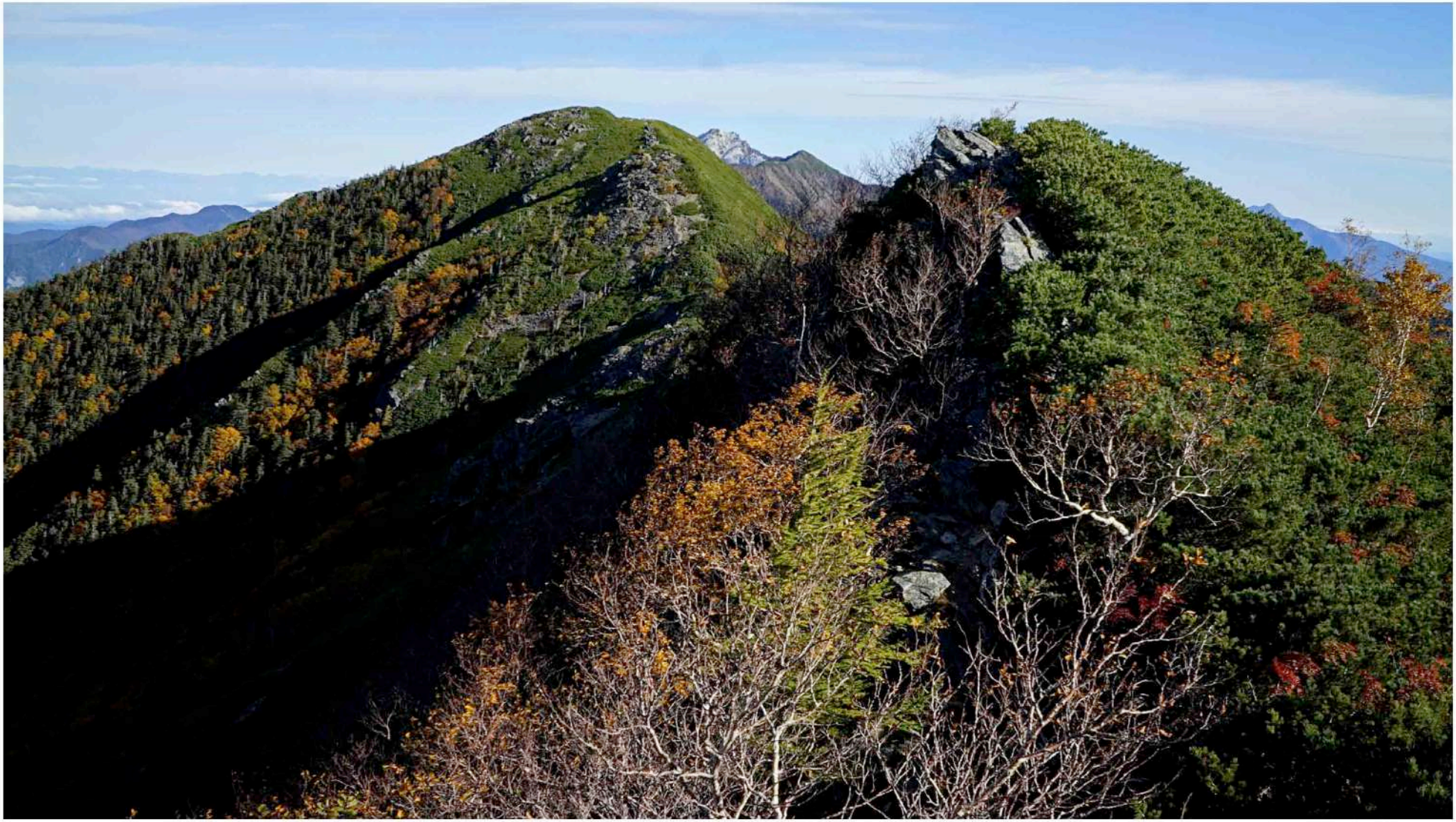
左手には仙丈岳。実に広大な空間。



恐ろしく冷たい風の中をバンダナを頭に巻いた藤原さんが軽やかに進む。
稜線漫歩開始とは言え、風の強さは予想外。



最低鞍部を越えて登り始めた地点から振り向いて見る北岳。



這松におおわれた小太郎山が近づく。

07:50、分岐からほぼ１時間で小太郎山到着。

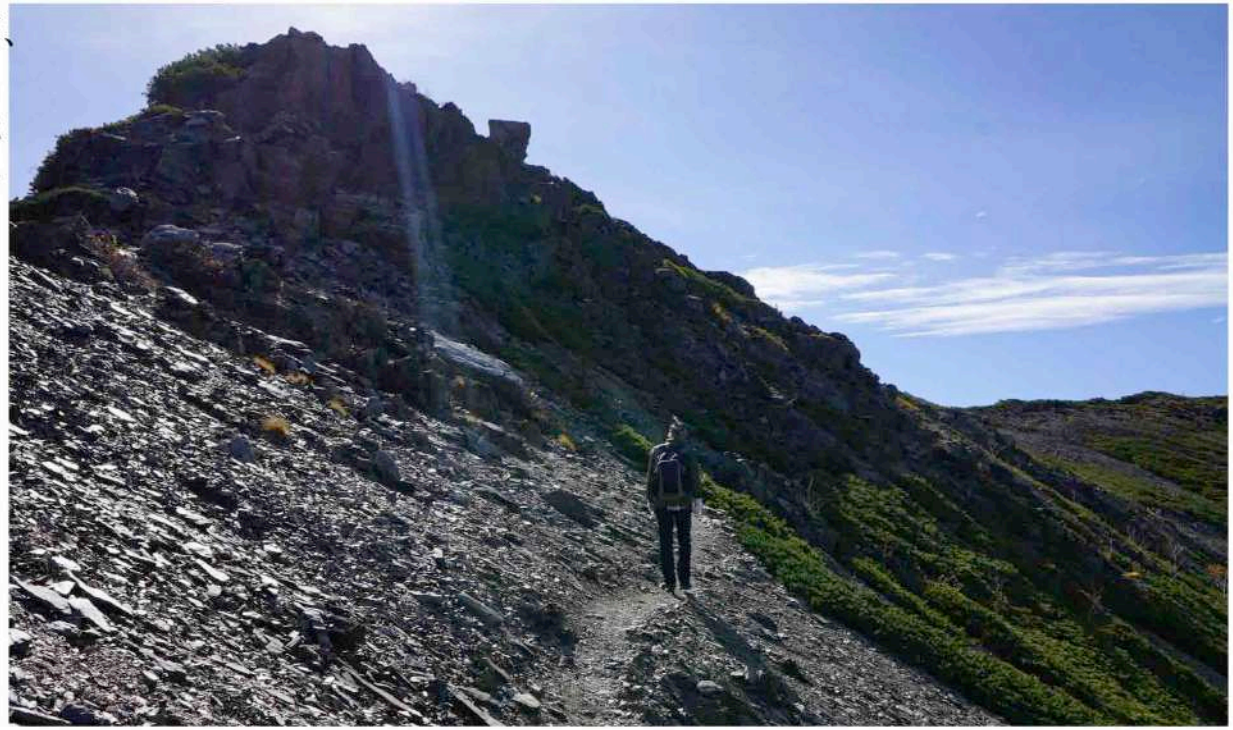
甲斐駒はアサヨ峰(2799M)に遮られて頭部しか見えない。しかし、野呂川から一気に競り上がる樹林帯の急斜面の重量感は圧倒的。
藤原さんは念願の二つめ、山梨百名山を踏破できて大変満足そう。次の目標は何だろう。８千mか？

改めて北岳。そして池山吊り尾根
小太郎山は分岐点からは110mほど下ったことになる。

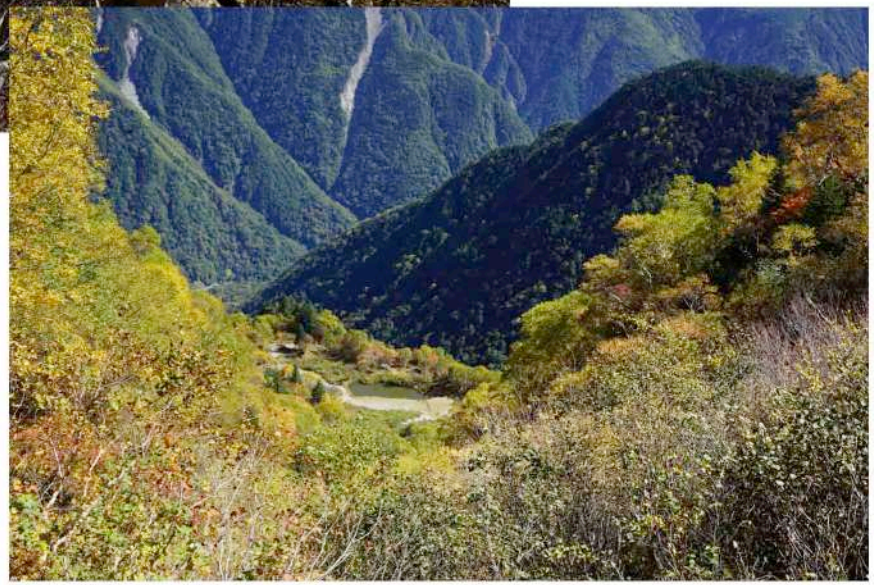
南東に絵に描いた様な富士山、櫛形山、千頭星山。背後には北西に向け同じ様な山の重なりの向うに穂高連峰。
両脇に儀仗兵の様な左右の山の側稜が続く深い回廊が富士山から穂高まで一直線に続いている。
小太郎山はその回廊を見晴るかせる唯一の場所だ。

往路ではまだ太陽が低く、稜線の西には日が差し込んでいなかった。
それが復路では変わった。西側の側稜上の樺の木の黄葉が見事だ。

小太郎尾根は単調な平坦道と思っていたが、実際は縦走路というものの美点を全て備えた見事な天上廊下だった。当初の冷たい強風も止み、激しかった山行きの最終章にふさわしい雰囲気になってきた。



分岐の手前で小太郎尾根を振り返る。氷河が削ってできた二重山稜が尾根道の表情を豊かにしている。
分岐着9:17、往復２時間20分。ここだけを目指して登って来る価値もある山稜だ。



わずか２泊３日にいろんな物が詰まった山行だった。念願のバットレスを足掛け７年でようやくトレースできた。
学生時代に何のためらいもなくトレースした同じルートは67歳にとっては格段に重く、難しいものに変わっていた。冬の鹿島槍もそうだった。おそらくこの間に様々なことを知ったことと体力の減退がその理由だ。おかげで今の生の実態をいやと言うほど思い知らされる。だからこそ山はぼくにとっては登り続けなければならないものなのかもしれない。御池小屋到着10時、広河原着１１時にて終了。